

2025年7月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 7月えんだより

7月の聖句「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。」

どんなことにも感謝しなさい。」

テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 5章 16～18節

「あめあめふれふれかあさんが、じゃのめでおむかえうれしいな・・・。」子どもの頃の梅雨のイメージは、「しとしと」と何日も雨が続き、田んぼに植えられている稲は、その雨の恵みを受けている。そのような雨をも楽しめるようなイメージでした。しかし、近年の梅雨は、災害につながるような激しい雨が局地的に降ることが多くなり、多くの人々が「恵み」よりも「恐怖」を感じるようになってきているように思います。そのような状況の中でも、こども達には雨の恵みを感じ、楽しみに夏の訪れを待てるように過ごせればと願っています。

少し前になりますが、「幸福度」についてのアンケート結果を目にする機会がありました。世界22各国の20万人にアンケート調査した結果です。日本は最下位の22位でした。楽観主義や自由、達成感などの多くの指標でスコアが最も低かったようです。親しい友人がいると答える人も顕著に少なく不安や心配などを感じる人が多かったとも。また研究者の意見としては「宗教行事への参加が少ないことも関係があるかも」といった見解もありました。22か国の中で週に1回以上、教会で礼拝する人は幸福度が高い傾向があったそうです。生きがいに関わる宗教の教えや行事に通じた人間関係の広がりや幸福度を押し上げたのではとの意見も紹介されていました。また、多くの国で若い世代の幸福度が低かったようですが、これは、「スマートフォンやソーシャルメディアで自分と他人を比べる機会が増えたことや、能力主義的な風潮が強まっていることが影響した可能性がある。」との見解が示されていました。1970年頃、「隣の車が小さく見えます。」といった車のコマーシャルのフレーズがありました。50年以上前から、隣よりも大きなものを求める。今の自分の状況に満足しきれない。といった価値観が存在し、「隣より小さい＝不幸」と感じるようになっているのかもしれませんが。幼い頃の生活を思い起こすと、お正月には獅子舞が各家に回ってきたり、托鉢のお坊さんが回ってきたり、また、地蔵盆では自分の名前が書かれた提灯が掲げられた近くのお地蔵さんのところに集まって大きな数珠を回したりといった場面がありました。日常生活の中に宗教や地域の人々とのつながりが隣より大きなものを求めることより、繋がりの方が大切にされていたように思います。50数年後の今、22か国中で幸福度の高かった国と低かった国を見てみると、国の経済的豊かさとも一致するところか、どちらかというとも相反するような結果でした。

1950年から70年以上にわたって多くのこども達や青年たちを世に送り出してきた神戸YMCA余島キャンプ場が、この夏をもって閉じられることになりました。50年余り前にこの余島キャンプに参加した一人の男の子が、キャンプ場の浜辺で夕陽を見ながら担当のリーダーにぽつりと一言。「リーダー、神様って本当にいるんやね。」「どうしてそう思うの?」とリーダーが訪ねると、「夜目を覚ました時に、リーダーがみんなの毛布を掛けていた。その時に『神様がいます。』と思った。」と。大きく豊かではないかもしれない毎日の歩みの中にも神様が共にいてくださることを喜び、感謝の祈りを捧げられる歩みが続けられればと思います。

7月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	どれどれ／ぞんぶんに	はずんで／思いっきり
月の願い	・保育者の祈りや賛美を喜ぶ中で神様を感じる ・やりたいことを存分に楽しみ、友だちや保育者と共感する喜びを知る ・水、砂、土、泥に触れ、感触を楽しむ	・賛美やお祈りすることを喜び、礼拝を心地よく感じる ・遊びや関わりの中で、表現すること・探究すること・交わることを思いっきり楽しむ ・暑い中でも木陰の涼しさを感じ、水遊びなどで心も体も開放する
讃美歌	「ちから」 幼児讃美歌Ⅱ 15	「ロケットにのって」 こども改109